



第六回 笠岡百景

三笠博通さん（大井南）

腕に確かな技術を持つ人がいる。その腕で作られるものが人々を魅了する。このコーナーでは、そんなキラリと光る技を持つ「匠」たちを紹介し



▲第二十九景
「小田県庁門」



後世に残したい笠岡の百の景色を描く…。そんな偉業に挑戦するのが三笠さんです。五年前に六十歳を迎え、自身の郷土愛から創作を始めたのが若い頃に習っていた油絵でこの笠岡の風景を描くことでした。

「私の作品を見て、笠岡に親しみをもち、郷土を愛するようになってほしい。」第一景の笠岡港に始まり、貫閣講堂や北木島の採石場など、その土地の人なら誰もが見たことのある風景を描いた作品は、写实的で細部にわたるまで忠実に描かれており、木々や人が今にも動き出すのではないかと思うほど。

「笠岡百景 郷土の心」
三笠博通 油彩画展
とき…5月5日(金)～7日(日)
9時～17時
ところ…市民会館

この四月には、四十景を達成する予定で、五月にはそれを記念して個展を開催します。「とにかく一人でも多く見に来てほしいですね。そして、笠岡の良さを知ってほしい。私は誰でも親しめる、楽しんでくれるものを残したいと思って描き続けているんです。そのためにも、今はこの百景を達成することしか頭にありません。」

展覧会と行事のご案内

ふであと
竹喬の筆跡展
～4月23日(日)

竹喬の箱書きや書簡などを紹介します。

楽しむNight講座
「仏像から見る
平櫛田中」

講師…上園四郎
(竹喬美術館副館長)
3月11日(土)
18:00～19:30
展示も20:00まで鑑賞できます。要申込み。入館料のみ必要。

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>



竹喬美術館の光彩 39

比叡

小野竹喬 作
昭和三七(一九六二年)
一七・七×五一・六cm

「比叡はいつか絵にして見たいと思ってた。しかしあのピラミッド型の山を、一定の枠の画面におさめるのは、なかなか至難であった。其為について取組むことを躊躇していた。或る日、友を訪れた帰途、加茂川の堤上で見た比叡は、背景となった雲の形によって、いつもより拡がりが生じ、画心をそそられたのである。」
(竹喬のことば)

京都市街のどこからでも望むことができるという比叡は、竹喬にとって慣れた風景の一部分であったに違いなし。しかし、どんなに繰り返し眺めても、絵にならないこともあるようだ。たまの息抜きの帰り道、画家は貴重な一瞬を見つけスケッチを残している。

今月の表紙

甘くいいちごを口いっぱいにおぼる子どもたち。2月20日、吉田幼児学級の親子がべいふあーむ笠岡(笠岡湾干拓地)内のストロベリーファームで、いちご狩りをしました。ハウス内で真っ赤に色づいたいちごにお母さんもお興奮。親子仲良くいちごを食べ楽しんでいました。

なお、このいちご狩りは、3月から5月の毎週日曜日と祝日に行われています。申込みは、JA倉敷かさや笠岡ふれあい青空市(☎086-1501)まで。

係から

熱戦が繰り広げられたトリノ冬季五輪。全力を尽くして戦う選手の様には大きな感動を覚えました。雪と氷の上の競技は、温暖な笠岡には馴染みの薄いものですが、スポーツマンの汗と涙、そして笑顔は、国境や言葉を超えて絶対的な存在のようです。

ところで、カーリングによく似たシャフルボードをご存じでしょうか。手軽さから市内にも愛好者が増えています。見るだけでなくやってみると、スポーツの楽しさも2倍になるそうです。皆さんチャレンジしてみてください。(中)



発行日/平成18年3月1日
発行/笠岡市役所
編集/企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2114

印刷/アドハウス ☎66-4670

笠岡市ホームページ：<http://www.city.kasaoka.okayama.jp>
メールアドレス：kouhou@city.kasaoka.okayama.jp



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆インキで印刷しています。

R100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています